診療参加型実習を活用した「急性期ベッドサイドリハビリテーション実習」の取り組み
－知的技能を可視化した臨床実習－

磯邉崇　昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室

「バイタルサインの測定・評価」と「フィジカルアセスメント」は病態・疾患の管理状態の把握、運動の適否の判断において必須の項目である。しかし、「バイタルサイン」の知識、「フィジカルアセスメント」の運動技術はあるが実践できない場面を多く認める。そこで、より実践的な臨床能力を身に付けるために、**知的技能**に着目した取り組みを行ったので報告する。

対象と期間

昭和大学保健医療学部地学療法学科3年生3名（男性×3）
総合臨床実習Ⅰ（6週間）の2週間

方法

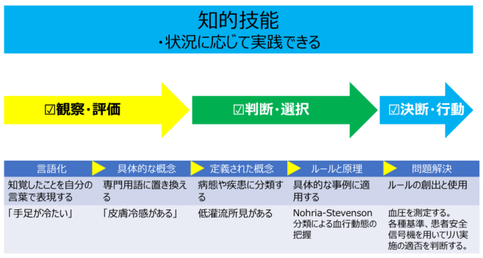
行動目標

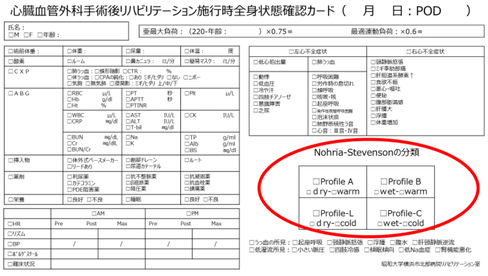
□リスク管理　　バイタルサインの測定・評価ができる。
□理学療法評価　　フィジカルアセスメント（問診・視診・聴診・触診）ができる。

到達目標

観察から循環機能の異常を認知し、Nohria-Stevensonの分類に基づき血行動態を判断してバイタルサインの測定ができる。

・知的技能を時間軸に沿って5つの過程に分解し、「知的技能カード」を作成した。
・訪室前、予測される最初の変化を知覚するためのリハーサルを行った。
・訪室時、実習生は過程を発話しながら実施した。





結果

行動目標

□リスク管理　　バイタルサインの測定・評価ができた。
□理学療法評価　　フィジカルアセスメント（問診・視診・聴診・触診）ができた。

到達目標

観察から循環機能の異常を認知し、Nohria-Stevensonの分類に基づき血行動態を判断してバイタルサインの測定ができた。

考察

①自分の言葉で結論づける。
②結論の根拠を述べる。
③自分の結論に基づき行動を選択し、実行する。

▼

知識と技術を基盤に、より実践的な臨床能力を身につけるための知的技能の重要性が示唆された。

結語

実習生がより実践的な臨床能力を身に付けるためには、実践の場面での経験とともに、実践の中で知識や技術を適用するための指導を実施することが必要と考える。

今後は実習生が自身で成果をあげ、カークパトリック3レベルを達成できるような実習を展開していきたい。

第13回日本医療教授システム学会・総会学術集会　COI 開示筆頭演者氏名：磯邉　崇
演題発表に関連し、発表者に開示すべきCOIに関係ある企業などはありません。